

房総の郷土芸能

令和7年度

夷隅・長生地区の6つの民俗芸能が一堂に会す



国府台神楽囃子(いすみ市)



佐貫季寄(睦沢町)



旭進揚操派(茂原市)



上原神楽囃子(大多喜町)



高師八幡神社お囃子(茂原市)



高山田神楽囃子(御宿町)

入場無料

令和8年 1月25日

開場 12時15分
開会 12時45分

会場

いすみ市岬ふれあい会館
〒299-4621 いすみ市岬町東中滝720-1
TEL 0470-87-8785

主催 房総の郷土芸能実行委員会

千葉県無形民俗文化財連絡協議会、千葉県教育委員会、いすみ市教育委員会、茂原市教育委員会、長柄町教育委員会、長南町教育委員会、睦沢町教育委員会、大多喜町教育委員会、御宿町教育委員会

後援 千葉テレビ放送株式会社、株式会社千葉日報社、ベイエフエム

助成 夢まるふぁんど委員会(第20回夢まる文化(国際)事業)、公益財団法人土屋文化振興財団(令和7年度一般部門助成事業)

協賛 千葉県立房総のむら[指定管理者:公益財団法人千葉県教育振興財団]

問合せ 房総の郷土芸能実行委員会事務局(千葉県教育庁教育振興部文化財課内) TEL.043-223-4085

房総の郷土芸能

千葉県内各地には、豊かな自然や歴史の中で培われ、今日まで伝承されてきた民俗芸能が数多くあり、地域の祭礼等で演じられています。日頃は地域で演じられている民俗芸能を目にする機会は多くありません。そこで、こうした文化財に対する一般の理解と認識を深め、将来への保存・継承活動の推進と地域文化の活性化に寄与することを目的として、平成8年度から地域を代表する民俗芸能を集めて上演する「房総の郷土芸能」を開催しております。

佐貫季寄 佐貫季寄保存会／睦沢町



佐貫季寄は、江戸時代末期から明治時代初期に佐貫地区で生まれた歌謡です。高井綱蔵、安藤武吉という人物が創始し、中山連という芸能集団の芝居の幕間や、家の庭などで日常的に上演されていたと伝わっています。

五穀豊穡を願う歌にツケと鉦が付き、菅笠を持った女性が踊るという、非常に緩やかなテンポが特徴です。歌詞は以下のとおりです。

- 一、十七が十七が 蓑笠着込んで 鍬鎌かついで 農業に出る
- 二、これ島田これ島田 どこへと問われる わたしや百姓の福娘
- 三、世も直る 世も直る 豊作万年 取り込む五穀が数知れぬ
- 四、これ百姓 これ百姓 い出て拝めば 万年弥勒がまもり来る

本日は歌詞の2番までを披露しますが、現在の保存会員と、保存会OBによる2部構成として踊ります。睦沢町佐貫地区に現在まで、そして未来にも受け継がれていく歴史を感じていただけたら幸いです。

上原神楽囃子 上原神楽囃子保存会／大多喜町



上原神楽囃子は、地元の諏訪神社の秋祭りに神輿とともに山車で区内を渡御し、休憩所で獅子舞を行い、悪魔払いをするお囃子です。このうちお囃子は夷隅地域でよく見られる馬鹿囃子、通り囃子、四調目等を、獅子舞は立獅子と玉獅子を伝承しています。伝来は江戸方面か、勝浦方面かは良くわかっていませんが、千返舎一九の「房総道中記」に大多喜の記載があり、「この宿にて獅子舞の上手なるを見て、災いの悪魔を払う」と記されています。このため、江戸時代の中期頃には現在の大多喜町周辺で行われていたと伝わっています。現在も舞の途中の歌で「悪魔を払うなり」と締めくくります。

保存会は昭和52年に伝承の危機感から発足し、現在20名の会員にて4月から11月まで月2回の練習を行っています。最近では子供が少なくなり少し寂しいですが、小学校・中学校への出前講演や、お城まつり等の町の行事への出演を行っています。

本日は、立獅子の舞、四調目、通り囃子を披露致します。

高山田神楽囃子 高山田神楽囃子保存会／御宿町



高山田神楽囃子は、寛永年間に御宿町高山田の春日神社の遷宮があり、その記念に祭り囃子と神楽が奉納されたことに始まるとわれています。以来およそ350年にわたり夷隅郡御宿町の高山田地区に受け継がれてきました。楽器には笛・太鼓・摺籠が使われ、毎年春日神社例大祭日の神輿渡御に先立ち奉納されます。

本日の演目は、例大祭日に神輿渡御中に御宿町内各所で演奏される「祭囃子」、神輿渡御前に神事として奉納される「神楽舞い」です。

神楽舞いは「降神の舞」、「悪魔払いの舞」、「招福の舞」、「大平謳歌の舞」で構成されております。演舞の途中で「ひよっこ」と「おかめ」も入り、場を盛り上げてくれます。また本日は春日神社例大祭日には披露していない「てまり数え歌」も行います。神楽の動きも特徴のある仕草となりますので、是非ご注目下さい。

会場 マップ

ご来場の際は、お車の乗り合わせ、または公共交通機関のご利用にご協力ください。

アクセス

JR 外房線長者町駅より
徒歩 11分・駐車場有



国府台神楽囃子 国府台神楽囃子保存会／いすみ市



国府台神楽囃子は、今から約450年前の戦国時代、いすみ市万木の万木城主の土岐氏の家臣であった加治五郎兵衛有久という武将が国府台城に赴いた時、神楽囃子を村の人々に伝えたのが始まりであると言われています。以来、産土神である五柱神社(国府台城跡)の氏子によって継承されてきました。昭和51年には保存会が結成されて子ども囃子もスタートし、令和7年が結成50周年の年となりました。

囃子には、馬鹿囃子・新馬鹿囃子・神田囃子・昇殿・神田丸・鎌倉・大間囃子の7曲が伝わっています。獅子舞には、四方舞・二の舞・御幣の舞・鈴の舞・剣の舞・怒りの舞・大怒りの舞が伝わっています。そのほか、余興として、玉取り・牛神楽があります。

本日の演目は、馬鹿囃子・新馬鹿囃子・鎌倉囃子・大間囃子、そして獅子舞です。子どもたちも精一杯頑張りますので宜しくお願い致します。

旭進揚操派 上永吉囃子保存会／茂原市



旭進揚操派は、茂原市上永吉地区に伝わる祭り囃子で、明治初期、郷土の教育者千葉天夢氏が「旭進揚操派」と称して、八幡原(旧五郷村)より継承したのが始まりとされています。現在は、地元の八坂神社、八幡神社等に囃子を奉納しているほか、七夕まつり郷土芸能発表会に参加するなど技術の向上や後継者の育成に力を入れています。笛のメロディーで全体を引っ張り、大太鼓1、小太鼓2、鉦1から構成される五人囃子です。ある時は激しく、ある時はゆったりとした太鼓の響きと、リズムを刻む鉦の調和の美しさをお楽しみ下さい。

高師八幡神社お囃子 高師八幡神社お囃子保存会／茂原市



高師八幡神社お囃子は、明治初期に当時の長生郡五郷村で生まれました。旭進揚操派と同じく、千葉天夢氏が発展に尽力したお囃子です。上永吉囃子保存会と同じ旭進揚操派ですが、継承時に高師八幡神社独自のメロディーも生まれています。現在のお囃子保存会としては、神社周辺の子ども会がお囃子を始めたのがきっかけとなり、平成10年に発足しました。そのため、小学生から50代を中心に、学生世代が主軸の若い世代で構成されていることが最大の特徴と言えます。

本日は「さざみ」「らんびし」を含めた演目を行います。コロナ禍の前後で主軸となるメンバーが入れ替わり、現在のメンバーでは初めてのお披露目です。演奏者である自分たちが楽しく演奏し、聞いている皆様にも「お囃子って楽しそうだな」と思ってもらえるよう、みんなやる気満々で練習中です。まだまだ発展途上の私たちですが、地元を盛り上げるため、さらに後世へと繋いでいくため、精一杯演奏します。ぜひ、暖かい目で見守っていただき、大きな拍手を頂けますと幸いです。